

# ナイアガラタイムス

2022年6月1日 第10号

## 人 カ 夢



### 目次

名盤探検⑨	サザンオールスターズ『人気者でいこう』	・・・ 2
シネマ滝⑧	『あやしい彼女』(2016年4月公開)	・・・ 3
THE 極み	相模原市立図書館 清野愛子さん	・・・ 4
美味しい話⑧	漁港の駅 TOTOCO 小田原	・・・ 7

## 名盤探険隊⑨ サザンオールスターズ「人気者でいこう」(1984年7月発売)

今まで、このコラムでは「有名なアーティストの滝だけが知っているアルバム」を意識して選んでいたが、今回はサザンオールスターズ。38年前の作品とは言え、好きな方はきっと多いはず、心して書かなければ。

桑田さんは、ビートルズを愛しているのだと思う。90年のアルバム「サザンオールスターズ」のジャケットにはカブトムシ。05年の「キラーストリート」はレコーディングスタジオがある通りの通称から名付けられている。これもビートルズのラストアルバム「アビー・ロード」からきている。そしてこの「人気者でいこう」のラストは「Dear John」というジョン・レノンを追討するしっとりとしたバラードでしめくくられている。

サザンは78年に「勝手にシンドバット」でデビュー。ランニングと短パンという出で立ちで早口な歌い方に周囲の人達にはコミックバンドと思われ、あのドリフからも声がかかったとか。それが3枚目のシングル「いとしのエリー」で一気に音楽性の高さを知らしめる。その後、5枚目までは順調にヒットを飛ばすのだが、そこから2年間ぐらいシングルのヒットには恵まれず、テレビで歌う事がめっきり少なくなっていた。桑田さんは、どんな手段をとっても、またテレビで歌いたいと思っていた。そんな時、テレビで歌う当時のアイドル田原俊彦を見て「これだ」と思い、「チャコの海岸物語」という歌謡曲のような曲を書き、メンバー全員が並んで笑いながら歌った。これがヒットし、その人気は今に至る。

さて話をアルバムに戻しましょう。この作品は、サザンの7作目のアルバム。発売日は七夕。つまり7が3つ並ぶ。チャートの的には通算6週、首位を取り、この年、邦楽のアルバムでは最も売れたアルバムである。

調べてみると知らない事があった。それは、滝がこのアルバムで一番好きな「海」という曲、これがジェイシーフルーツというバンドに楽曲提供されセルフカバーだったという事。さらには発売直前までシングルカットされるはずだったという事。この曲、滝は本当に好きだ。桑田さんの声、間奏のサクソ。夏の江ノ島で聞いたら、どんなにいいだろう。それから長山洋子に楽曲提供した「シャボン」。原さんのボーカルも素敵だ。桑田さんは、何故あんな乙女心が書けたのだろうか。そしてラストは、さっき書いた「Dear John」桑田さんの優しさが本当にあふれている曲だ。

最後に余談になるが「そういえば初期の4タイトル持ってないな」と思い、昨日、大人買いしてみた。「熱い胸さわぎ」というファーストアルバムを聞いて、音楽性の高さにたまげた。この音楽性を基本に44年間やってきたんだらうなと思った。



## シネマ滝 『あやしい彼女』 (2016年4月公開)

もしも若い時に戻れるのなら戻りたいと思ったこと、皆さんはありますか？

滝はまだないな。若い時って「今の仕事や生活が、あと何年ぐらい続けられるのだろう」という不安がすごく強かった。それに周りからは言いたい放題言われ、よく悩んでいたから。

今、ネットを見て驚いた。この作品は、韓国で制作され、中国、ベトナムでリメイクされ、そして日本でも制作された映画だった。それだけ「女性の若さという美德」は共通の関心事なのだろうか。

これは73才のおばあちゃん(カツ・倍賞美津子)が、20才の女子(節子・多部美華子)に若返り、人生の休日をおごすという物語である。

カツは、バイト先の銭湯では家族の自慢話ばかりし、町内では毒舌を吐きながら歩き、家では、二言目には「お前たちのために」と苦勞話ばかりしていた。そんな時、振り込め詐欺に合う。娘(幸恵・小林聡美)には「100万で済んだのだから勉強代だと思えばいいじゃない」と慰められる。だが、カツは「なにを言う、私は孫(翼)と、お前の出世のために貯めてあった金を出したんだ。全部、おまえ達のためだ」と言い張る。これには幸恵もカチンときて「それじゃ好きにすればいいじゃない」と言い、カツは「この家に私がいなくなったら、どうなるか覚えておけ」と啖呵を切り家を出る。

家を出て、とりあえず今まで入った事がない写真館に入り一枚の写真を撮ってもらう。写真館を出た時、バイクのひったくりに合う。カツはものすごい勢いで飛び掛かり捕まえる。何故か体がよく動く。そして自分の顔が映るバイクのミラーを見てびっくり。そう、節子になっている。

まずは元々、歌が好きだった節子は地元ののど自慢に出る。そして優勝。そこにいた、なにも知らない翼は、節子をお茶に誘い「オレ達のバンドに入ってくれ」と言う。そこから節子の人生が急回転していく。

一方、幸恵達はカツがいなくなったから大慌て、昔からの知り合いはいないのかと、探したりしていく。そこでカツの昔の出来事に初めて触れていく事になる。その事実とは。

この映画の見どころは、多部美華子の演技力と歌唱力だと思う。だって中身が73才の女の子なんていないから。それを自然に見事に演じている。

ありえない設定、そして急展開していくストーリー。見終わったあと、絶対、心がポカポカに。そんな映画だ。



相模原市立図書館 清野愛子さん

実は俺は、図書館というものに縁がなかった。それは、本を読む時、不随意運動でグシャグシャにしてしまうからだ。今回、本誌を手伝ってもらっているボランティアの方から「図書館なんかどう？」と言われ、「いいな是非やってみたい。でも公務員の方だから取材を受けてくれるかな」と思った。それで市立相模原図書館の清野さんをお願いしてみた。清野さんは快く引き受けて下さり、原稿まで用意してくれていた。

きっと図書館の事は、俺より読者の方達の方が詳しいのではないかと思うのですが、清野さんの志と日々の奮闘ぶりに触れて頂ければと思います。

【何故、図書館で働きたかったんですか？】

私は図書館の専門職として司書をしています。私は子供の頃から本を読むのが普通に好きな子でした。小学校の高学年の時は、学校の図書室でギリシャ神話とか「マンガ日本の歴史」とかをよく読んでいました。それで中高生になって地元の公共図書館に行きました。そうなんです、本がたくさんありすぎて、どんな本が自分にピッタリな本というのが分かりませんでした。でも司書の人に聞くのは緊張しました。なので私が司書になったら利用者の皆さんが気軽に話しかけてくれるような親しみやすい司書になりたいなと思って、司書の勉強ができる大学に行きました。そして大学で図書館司書の資格を取ることにしました。

何故、図書館で働きたかったかという、「自分が子供の頃にあこがれの司書に会って」ということをよく聞くんですが、私はその逆で、親切な司書の方に出会えなかったので、自分自身が後輩の中高生達に親切な司書になって、読みたい本を探すお手伝いがしたいなと思って司書になりました。

【図書館の役割】

図書館って皆さん、どのようなイメージをお持ちでしょうか。本がいっぱいあるところ。本を借りるところ。学生さん達だと「勉強するところ」。そういうイメージですよ。その通り。ただ私は、「図書館の奥深さ」をこんなところで感じるんですね。人々は、知識とか思想を文字によって記録してきました。そのように記録された情報は、印刷の技術の発展とか通信技術の発展によって、世界中に広がって、どこにいても手に入れる事が出来るようになりましたね。図書館はこのように人類が蓄積してきた世の中に存在するオールジャンルの知識や情報をずっと収集して保存してきました。そして、それらを人々に提供して後世の人々にずっと引き継いでいく。つまり図書館は「記憶の機関」なんですね。そして世界中の図書館が永きに渡って、その役割を担い続けてきているんですね。

もうひとつ。みなさんの身近にあるそれぞれの図書館。その地域にある図書館というのは、その地域に深く関係する資料を収集そして保存していく。そういう大切な役割もあります。ですので、ウチ相模原市立図書館でも、相模原市の地域や郷土に関する資料を豊富に持っています。そうやって収集して保存していく。そして、市民の皆さんが情報にアクセスの拠点として、また市民の生涯にわたる学習・交流の拠点としての役割もますます期待が高まっています。

もうひとついいですかね。私が図書館って、とてもすごいなと思う事があります。それは、誰でも、いつでも、身近な図書館や図書室を通じて、遠くまで行かなくても読みたい本を入手する



事が出来るのです。図書館には、館や自治体の枠を越えて、本をお互いに貸し借りするためのネットワークが整備されています。なので、もしも滝さんの読みたい本がウチの図書館になかったとしても、同じ市内の図書館から取り寄せられるし、もし市内の図書館のどこにもなければ、県内の図書館。それでもなければ県外の図書館。その先は国立国会図書館。そこまで行き着きます。これって、すごい事だと思いませんか。

私も学生の時は、読みたい本を好きなだけ買えるようなお金はがなくて、近所の図書館で本を借りていたし、今、ご説明したサービスは、「予約」とか「リクエストサービス」と言うんですが、そういうサービスを使って、本を取り寄せてもらって本を読んでいたな。

このふたつが図書館の役割というか、すごいなと思うところです。

#### 【仕事の内容】

そんな中でどんな仕事をしているかという和多岐に渡ります。何故かという、その対象は、0才の赤ちゃんから100才のお年寄りまですべての市民だし、扱う知識はまさにオールジャンルですから。

見えやすい仕事としては、カウンターで本の貸し出しや返却を行ったり、市民の皆さんの調べ物のお手伝い、レファレンスサービスなどですね。あとは、いろんなイベントもやっています。たとえば、子供向けにお話し会をしたり、大人の人を対象に講座もしています。

裏側の見えにくい仕事と言えば、選書と言って、毎週、新刊本が出版されて、その本の中からなにを図書館に入れるか選んで発注をする。それから本屋さんとは違って、本にフィルムカバーが貼ってあります。これは汚れを防ぐためだったり、防水機能、色々な人々に貸し出しするので、長く保存していくために、ただ買うだけではなくて、そういう装備を施します。さらに本にはバーコードが付いています。これは資料をすべてデータで保存するためで、その登録をしてから、はじめて本棚に並ぶのです。

選書は、毎週すごい数の本が出版されていて、お金も限られているので、市民のみなさんに喜んでもらえる本はなんだろうと一生懸命選んでいます。

滝：本が好きじゃないと出来ない仕事ですね。

清野：本当にそう思う。でも面白い。

#### 【仕事の面白さ、醍醐味など】

市民の皆さんから日常的に「ありがとう」と言ってもらえる機会が多いです。「ちょっと、この本、探しているんですけど」と言われて「一緒に探しましょう」と言い、本を探して見つかってお渡しする時に「ありがとう」って言ってくれるし。さっき言ったように、紙芝居とか絵本を読み聞かせをしますが終わった時に、「ありがとう」「楽しかった、もう一回読んで」と言ってくれるので、それはやっぱり嬉しいですね。

そのひとことに元気をもらって、私たち図書館員は、毎日本棚の整理をしますし、面白くて役に立つ本はなんだろうと日々悩みながら、さっき言った選書を行なっています。

#### 【どんな子供だったか】

私はあまり活発な子供ではなかったですね。かと言って「本の虫」というほど本好きという訳じゃなかった。好きなジャンルの本は読んでいたけれど、私よりも読書家の子は沢山いた。あとは、バスケットボールをやっていて、今でもバスケットボール観戦は大好き。本が好きになっていっぱい読むようになったのは高校生から。高校生大学生の時はいっぱい小説を読みましたね。

その時期に「将来の仕事どうしようかな」と思っていた。中学生の受験生の時に、よく図書館

に勉強に来ていて、「なんか図書館の雰囲気っていいな」とか「図書館の司書の人って、カウンターに座って、きっと好きなだけ本を読んでいられるだろうな」と思っていた。けれど、そんな事はなくて暇なんてなくて、とても忙しい。本って重い、だから体力勝負です。だけど今でも図書館の仕事は大好きです。

#### 【大変なこと】

どこの職場でも同じかもしれませんが、ないものばかり。つまり、お金が足りない。時間がない。人が足りない。という悩みはあります。

でも、そう言っても毎日の仕事が減る訳ではないし、利用者の方は毎日いらっしゃるので、職員みんな一生懸命頑張っています。けれど頑張りだけでは根本的な解決にはならないので、図書館の魅力や役割をもっと多くの方に知って頂く事が重要なのではないかと考えています。

#### 【これからどんな図書館にしたいか】

今言った、図書館の本来の魅力をもっと多くの方に知って頂きたいので、そのためにも、図書館員は図書館の中だけでなく、もっと外に出て、市民の皆さんや、企業、行政の各部署など、さまざまな人と繋がって、これまでお話したような図書館の魅力を発信していくことが大切だと思っています。

図書館の強みは「敷居が低いこと」だと思うんですね。つまり、まず誰もが無料で利用できますし、たとえば子供が一人で市役所に行くことはハードルが高くても、図書館や図書室なら気軽に来ることができると思うんです。

市役所でも、色々な取り組みやイベントを各部署がしています。それを図書館の場を活かしてPRしてもらおう。テーマに関連する本が図書館にはいっぱいあって、それを図書館員が集め、事業のパンフレットなどを持ってきてもらって一緒に置く。そんな取り組みを昨年度はたくさん行いました。そうする事で図書館は老若男女の方がいらっしゃるの、幅広い方に市の事業や取り組みを知ってもらえる。

そんなふうに図書館の魅力をもっと多くの方に知ってもらいたいと思うので、地域の方々と繋がって有効に活用してもらおう。そんな取り組みをこれからも続けていきたいと思っています。



## 美味な話 「漁港の駅T O T O C O小田原」

前号の編集後記で「これからも相模原の美味しいお店を探しておきますね」と書いたので、滝が前から気になっていた近くの洋食屋さんに行ってみた。そこは味も優しく、地域の方々にも愛されているお店だった。ただ、そこのお店は取材NGだという事。だからそのお店の事は、編集者の特権として滝の記憶の中にしまっておく事にしよう。

そこで、おとといの出来事を皆さんに聞いてもらいたい。滝も「今どき！」と思ったのだが、車椅子ユーザーなら、よくある話だ。

滝は月に2回ぐらい、ガイドヘルパーさんと松本や静岡そして小田原へ出掛けている。ただ、この頃マンネリ化していて、なにかないかなと思っていた。そんな時、テレビの旅番組で小田原の早川にある「漁港の駅T O T O C O小田原」の紹介がされていた。「ここに行ってみよう」と思い行く事にした。町田からロマンスカーに乗り小田原で降り、JRで一駅の早川に行こうと思い、改札を通ろうとした時、駅員に止められた。「お客さま、早川の駅にはエレベーターがなく、階段が結構あるんですが」との事。滝は「今の時代、そんなことがあるんだ」と少し驚いた。けれど駅員は、そのあとも丁寧に対応してくれ色々提案してくれた（これもインクルーシブルが進んでいる証拠だろう）。結局、小田原駅からはタクシーで行ったのだが、事前に買ってあった小田原から早川までの往復切符280円、本来ならば払い戻し手数料の方がかかるのに全額返金してくれた。

漁港の駅T O T O C O小田原は、早川港添いにある3階だての魚のテーマパークである。滝が食べたのはマグロ漬け丼。やっぱり港だけあり最高においしかった。

さっき調べたら、一日の乗降客が三千人以下の駅には今でもエレベーターが付いていないらしい。車椅子ユーザーの中には、自分の権利を守るために様々な場面で闘う方もいるが、滝は、目的が達成出来て、お互いが気持ちいい選択肢を取るようにしたいと思っている。



## 編集後記

今日(5月2日)はゴールデンウィークの平日。仕事場の窓から見える風景は若葉の木々と、やわらかい陽射し、そして青空。朝は少し寒かったけれど、本当に5月なんだと思える絵のようだ。テレビを見ていると3年ぶりの行動制限なしのG・W、様々な場所に出掛けてる人々が映しだされている。滝はそれを見ているだけで、胸が熱くなる。「仕方がない」と思い、ほかの楽しみを見いだしていた私達。でもやっぱり、青空の下で楽しみたかったんだよなとジーンときてしまう。これからコロナが、世界がどうなっていくか分からない。でも、素直な気持ちで生きていけば、いいことがある。それは絶対ですよ。

さて、今号はいかがだったでしょうか。相模原市立図書館の清野さん、原稿のチェックをしてもらいに行った時、音読もせずに短時間で赤入れをしてくれた。あの時は、いつも文字と接している人って、すごいなあと思った。そして、あんな図書館の事が好きで、多くの人に魅力を伝えたいという熱意。滝もそれを感じながら編集してみました。皆さんにも図書館について新たな発見があったら嬉しいなと思っています。清野さん、取材に協力して頂き本当にありがとうございました。そして今回の「美味な話」は、ちょっとした体験談を書いてみましたが、どうでしたか？今でこそ、エレベーターがない駅がめずらしくなりましたが、滝が電車を使い始めた35年前は、エレベーターがある駅がめずらしかった。そんな頃から活動しているから、あれぐらいの事は簡単に乗り越えられるのかもしれないなと思っています。

これから、雨の日が続いたり、暑くもなるでしょう。お身体ご自愛下さい。そして、目も背けたくなる映像が流れる日々だけど、平和を祈りながら、精一杯、自分らしく生きてみましょう。きっと、なんにも不安がなく、みんなが笑いながら暮らせる日がくるから・・・。

それでは

### 発行所

〒252-2042 神奈川県相模原市中央区横山 4-5-4-107

発行責任者 大滝英史

MAIL nb060234-1625@tbk.t-com.ne.jp

☎ 042(755)9105

### 発行協力

社会福祉法人アトリエ 一から百まで堂

〒252-0235 神奈川県相模原市中央区相生 4-13-5

### 振込先

フク)アトリエ

ゆうちょ銀行 ○九八(098)店

普通 1208349

記号番号 10960-12083491

